

広報

# おまず

2022

11

No.214



8月28日(日)、「えひめ南予きずな博」の大洲市シンボルイベントの一環として、大洲小学校児童による復興を願う灯籠流しが行われました。(関連記事15ページ)

**(特集) 環境のためにできること**

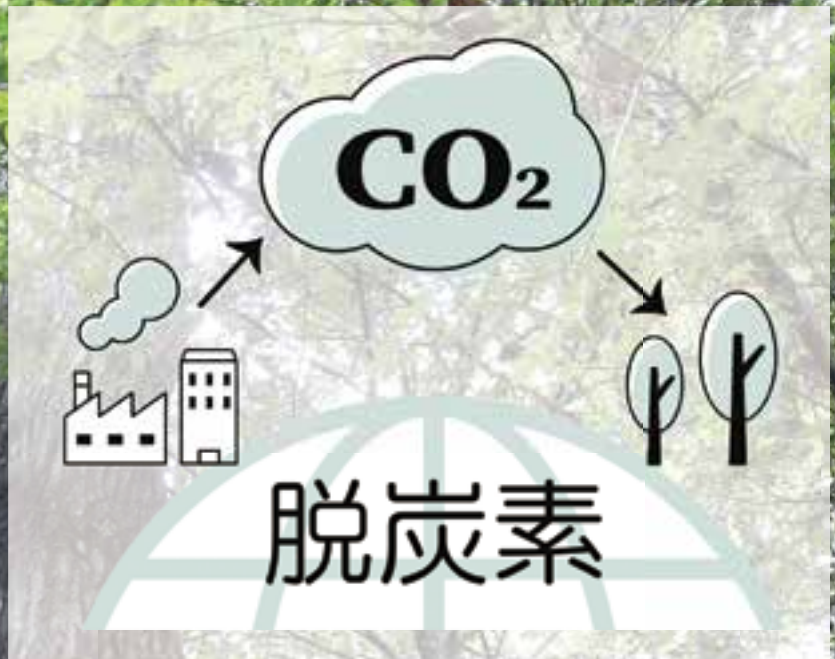
## (特集) 環境のためにできること

日本で環境基本法が制定されたのは1993年11月です。

それから約30年経ちますが、世界はまださまざまな環境問題を抱えていて、最近では「脱炭素」や「フードロス」という言葉をよく耳にします。

これは、持続可能な社会の実現に向けて解決していかなければならない問題ですが、どんな取り組みがあるのでしょうか。

今回は他の環境に関する問題も合わせて、私たちにできることを考えてみましょう。



### 環境のために その1

#### 脱炭素社会の実現に向けてライフスタイルを見直してみませんか？

##### 【脱炭素ってなに？】

脱炭素とは、地球温暖化の原因となる代表的な温室効果ガスである二酸化炭素の排出量をゼロにしようという取り組みのことです。地球温暖化の加速を受けて、世界全体で脱炭素にむけた取組が推進されています。

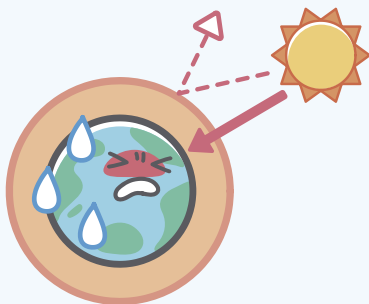


##### 【なぜ脱炭素社会を目指すの？】

どうして、脱炭素社会を目指すのでしょうか。大きな理由として次の2点が挙げられます。

1つ目は、地球温暖化による気候変動が顕著になってきたことです。大気中の二酸化炭素は、地表の熱が宇宙に逃げることを妨げる「温室効果」という働きをもっているため、大気中の二酸化炭素が増えることで、地球温暖化が加速、海面上昇や酸性化、洪水や干ばつなど、自然環境や私たちの生活にも大きな影響をもたらすといわれています。

2つ目は、人が主に経済活動に利用しているエネルギー資源である石油や石炭といった化石燃料が近い将来に枯渇するとの予測がされていて、化石燃料に代わるエネルギー資源の確保が急がれています。



## 身近なところからライフスタイルを見直そう

このように地球規模のはなしとなると遠くで取り組まれていることのように感じるかもしれません。しかしながら、私たちの生活から発生している二酸化炭素は少なくなく、一人ひとりが脱炭素社会の実現に向けて取り組むことで、二酸化炭素の排出量の削減に繋がります。みなさんも身近にできる脱炭素社会の実現にむけたライフスタイルの見直しをしてみませんか。



### 見直し①

#### 【プラスチック製品の購入・利用を減らしてみよう】

プラスチックは石油を原料としているため、焼却すれば二酸化炭素を排出します。プラスチック製品の購入・利用を減らすことは二酸化炭素の排出抑制につながります。

レジ袋の有料化に伴い、大洲市でもエコバックを持つ人が増加しました。その他の取組として、マイボトルやマイストロー、マイ箸を持ち歩いたり使用することでプラスチックの使用量が減らせます。



### 見直し②

#### 【家庭での節電に取り組んでみよう】

照明や家電製品も必要な時だけ使い、使用しない場合は、こまめにスイッチを切りましょう。また、長時間使用しない場合はプラグを抜いておくと待機電力を削減できます。

そのほか冷蔵庫の開け閉めを減らすことや、物を詰め込みすぎないこと。炊飯器の保温は控え、温めはレンジを使用するなどちょっとした取り組みで消費電力の削減につながります。

### 見直し③

#### 【近い距離は自転車や徒歩で移動してみよう】

自動車を使用すると、二酸化炭素が排出されます。近い距離は、できるだけ歩いたり自転車に乗るようにすると、二酸化炭素排出量を減らせるだけでなく、健康的な生活にもつながります。できるところから始めてみませんか。



そのほか、日常的に取り組める行動については環境省ホームページにも掲載されています。詳細は「ゼロカーボンアクション30」で検索してください。



環境省ホームページ

## 環境のために その2

### 教えて！知って！考えて！「食品ロスの現状と取組」



#### 【食品ロスって？】

食品ロスはフードロスとも呼ばれますが、簡単にいうと「まだ食べられるはずの食品を捨ててしまうこと」です。一般家庭だけでなく、スーパーマーケットで販売されている食品の賞味期限が切れたり、飲食店で仕入れていた食品が余ったりした場合にも食品ロスは発生します。



国民1人当たり食品ロス量

**1日約113g**

※茶碗約1杯のご飯の量(約150g)に近い量

**年間約41kg**

※年間1人当たりの米の消費量(約53kg)に近い量



資料：総務省人口推計(2020年10月1日)  
令和元年度食料需給表(確定値)

#### 【日本で発生している食品ロスの量は】

日本ではどれくらいの食品ロスが発生しているのでしょうか。農林水産省「令和2年度推計」によると日本で発生している食品ロスは約522万トン、国民一人当たり年間約41kgの食品ロスが発生しており、これは一人ひとりが毎日約113g(お茶碗約1杯分)を捨てていることとなります。

#### 【食品ロスが発生する原因と処分について】

食品ロスの主な理由としては、食べ残しや売れ残りによる廃棄ですが、その根底にあるのは消費者側も提供する側も「出来るだけ新鮮な食品を食べたい、提供したい」という考えです。

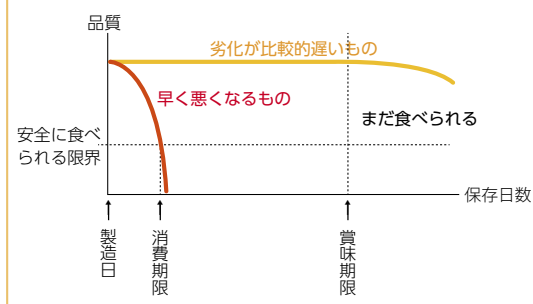
新鮮なものを食べたいと思うのは悪いことではありませんが、より新鮮なものから消費することで残った食品の鮮度が低下して食品ロスの原因となります。

スーパーマーケットで食品を購入するときに賞味(消費)期限が先のもを購入したり、外食の際について注文し過ぎてしまうことはないでしょうか。

売れ残ったり、食べ残された食品は廃棄となり、その処分については、焼却や埋め立てにかかる費用や、それに伴う人件費が伴います。また、廃棄処分をする時には、焼却によるCO<sub>2</sub>の排出や埋め立てによる土壌・水質汚染といった環境悪化にもつながります。



賞味期限と消費期限のイメージ



**賞味期限は過ぎてもすぐに食べられなくなるわけではありません**

# 食品ロス削減のために私たちができること

## できること①

### 【食品ロス削減の目標をみんなで達成しよう】

「食品ロスの削減の推進に関する法律」が2019年10月から施行されました。日本は2030年度までに、2000年度比で家庭系食品ロス・事業系食品ロスともに半減させるという目標を掲げています。

数値で見ると2000年度の547万トンに対し、2030年度までに273万トンまで削減する見込みです。

このことは、国連サミットで採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」も踏まえた取り組みとされ、SDGsの中では主に「**2 飢餓をゼロに**」「**12 つくる責任つかう責任**」に該当します。食品ロス削減の目標達成のための取り組みを一人ひとりが出来ることから実践しましょう。



## できること②

### 【「おいしい食べきり運動推進店」を積極的に利用しよう】

大洲市では、外食産業からの食品ロスの削減を推進するため、食べ残しを減らす取組を実践されている飲食店・宿泊施設を、申込により「**おいしい食べきり運動推進店**」として登録し、その取組を市ホームページなどで広く紹介しています。

また、ご登録いただける飲食店や宿泊施設は環境生活課までお問い合わせください。登録をお待ちしています。

【問い合わせ先】

環境生活課生活衛生係 ☎0893(57)9966 市ホームページ



## できること③

### 【「フードドライブ」に協力を】

家庭系食品ロス削減とフードバンク活動の活性化を目的に、家庭などで発生した余剰食品（食品ロス）を持ち寄り、子ども食堂や福祉施設などに寄付する「フードドライブ」の拡大に取り組んでいます。

家庭にある保存食品やインスタント食品などの未活用食品を有効利用するため、フードドライブにご協力をお願いします。

※現在、大洲市内で常設しているフードドライブコーナーは、フジグラン大洲です。  
(2022年2月28日現在：県ホームページより)



県ホームページ




# 環境のために その3

## 紙のリサイクルと環境

限りある森林資源から作られた紙を、リサイクルやリユースせずに捨てるのは、資源を使い捨てにすることと同じです。紙のリサイクルとは、古紙を新たにつくる紙の材料の一部にして、木材の利用を少しでも減らそうというものです。



### 雑誌・雑紙に分類されるもの

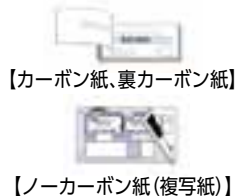
- ・禁忌品は取り除きましょう。
- ・ このマークがあっても禁忌品が含まれる紙もあります。

<b>【厚紙】</b> 	<b>【折り紙】</b>  金色・銀色などのコーティング紙は不可。	<b>【菓子箱】</b>  ビニール、アルミコーティングされているものは不可。紙以外の部分は除去。	<b>【紙箱】</b> 	<b>【紙袋】</b>  紙以外の部分は除去。
<b>【カレンダー】</b>  金具部分は除去。	<b>【かるた】</b> 	<b>【牛乳パック】</b> 	<b>【靴の箱】</b> 	<b>【コースター（紙製）】</b>  汚れがついているものは不可。
<b>【商品タグ】</b>  ビニールコーティングしたものは不可。紙以外の部分は除去。	<b>【水溶紙】</b> 	<b>【スタンプカード】</b> 	<b>【ダイレクトメール】</b>  包装のビニールは除去。	<b>【卵パック（紙製）】</b> 
<b>【地図】</b>  特殊加工してあるものは不可。	<b>【チラシ】</b> 	<b>【ティッシュの箱】</b>  ビニール部分は除去。	<b>【テープ類の芯】</b> 	<b>【手帳】</b>  個人情報をはできるだけ除去。紙以外の部分は除去。
<b>【トイレットペーパーの芯】</b> 	<b>【トランプ（紙製）】</b> 	<b>【値札】</b>  シールが貼られていたり、ビニールコーティングされているものは不可。紙以外のものは取り除く。	<b>【はがき・ポストカード】</b>  圧着はがきは不可。金属箔入りのものは不可。	<b>【パンフレット】</b>  包装のビニールは除去。
<b>【便箋】</b>  個人情報はできるだけ除去。	<b>【ファイル・バインダー（紙製）】</b>  金具やプラスチックの部分は除去。	<b>【封筒】</b>  窓付きの封筒は窓部分のビニールやセロファンは除去。	<b>【包装紙】</b>  セロファンテープやシールは除去。	<b>【ポスター（紙製）】</b>  コーティングされているものは不可。
<b>【本類】</b>  ・雑誌 ・書籍 ・単行本 ・辞書 ・電話帳 ・ノート ・楽譜 ・カタログ ・冊子類 ・ハードカバーの本 包装のビニール、ビニール製の表紙、ビニールコーティングしてある部分などは除去。雑誌の付録、付録のCDカバーなどは除去。	<b>【名刺】</b>  金属箔入りのものは不可。	<b>【模造紙】</b> 	<b>【ラップの芯】</b> 	
<b>【割りばしの袋】</b> 	<b>【用紙類】</b>  ・画用紙 ・コピー用紙 ・プリント用紙 ・メモ用紙 個人情報はできるだけ除去。包装のビニールは除去。油性絵の具やクレヨンで描かれたものは不可。	<b>【ワイシャツの台紙】</b> 		

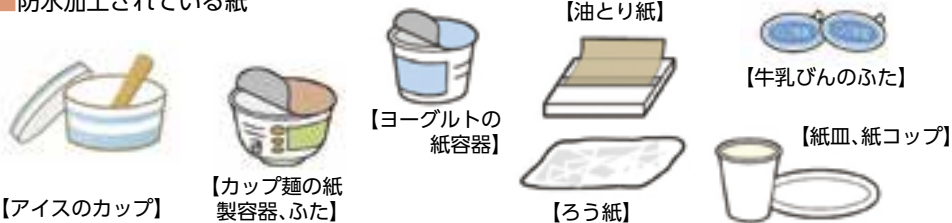
# みんなで分別回収に協力し、効率的なリサイクルの後押しを

## 雑誌・雑紙に含まれないもの (古紙類として出せない禁忌品)

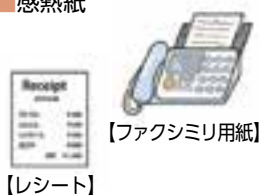
### ■感圧紙



### ■防水加工されている紙



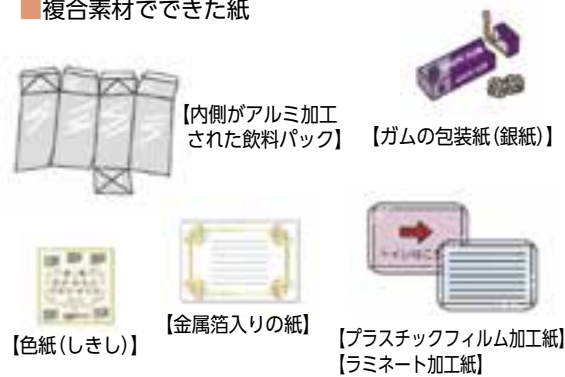
### ■感熱紙



### ■粘着物が付いた紙



### ■複合素材でできた紙



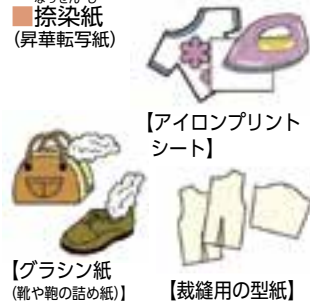
### ■発泡紙



### ■磁性性がある紙



### ■なっせんし 捺染紙 (昇華転写紙)



### ■印画紙



### ■その他の特殊加工紙



### ■汚れ、においが付着した紙



### ■その他、リサイクルが難しい紙



## 環境のために その4

### なくそう不法投棄「自分さえ良ければ」の身勝手な行動はやめましょう

#### 【ごみの不法投棄は犯罪です】

不法投棄とは、廃棄物を定められたルールに従って適正に処理せず、処分場以外の山林や空き地などにみだりに捨てたり埋めたりする行為で、地域の景観を損なうだけでなく、有害な物質が漏れる恐れがあり、土壌や地下水、河川が汚染されるなどの深刻な環境問題につながる重大な犯罪行為です。

不法投棄をした者は、5年以下の懲役もしくは、1,000万円以下（法人の場合は3億円以下）の罰金、またはその両方の罰則が科せられます。



#### 【不法投棄をしている人を発見したら】

不法投棄をしている人を発見した場合または不法投棄をした人が特定できそうな証拠品を見つけた場合は、「日時」や「場所」、「廃棄物の種類」、「車両のナンバー」などわかる範囲で記録し、環境生活課または大洲警察署生活安全課へご相談ください。

#### 【問い合わせ先】

環境生活課環境政策係 ☎0893(57)9966

大洲警察署生活安全課 ☎0893(25)1111

市内で発見された不法投棄の状況





# なくそう不法投棄 やめよう不法投棄

## 不法投棄の根絶にはみなさんの協力が必要です



### 対策①

#### 【大洲市の不法投棄防止対策について】

市では不法投棄を未然に防止するため、次のような活動を実施しています。

- ▷職員によるパトロール
- ▷大洲警察署生活安全課との情報共有
- ▷投棄されやすい場所への警告看板の提供
- ▷広報誌などによる啓発活動
- ▷監視カメラの設置

このような不法投棄防止対策を実施していますが、みなさんの協力が何より大事です。地域ぐるみで監視や、不法投棄をさせない環境をつくり、地域を守る取組を行いましょ。



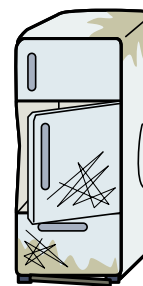
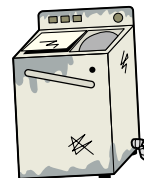
### 対策②

#### 【家電リサイクル法4品目の処理方法について】

家電リサイクル法対象製品（テレビ・エアコン・冷蔵庫・洗濯機）は、通常の処分方法とは異なります。

市の収集や大洲市不燃物埋立地への持ち込みはできませんので以下の方法で適正な処理をお願いします。

- 新たに購入または過去に購入したお店に引き取ってもらう
- 指定取引場所に持ち込む
  - ①メーカーと型番を確認し、郵便局で家電リサイクル券を購入
  - ②券に必要事項を記入し家電に貼る
  - ③引き取り場所（西濃運輸株：阿蔵甲990 ☎0893(24)4170）へ持ち込む
- 収集業者へ依頼する（市ホームページ参照）



市ホームページ



### 対策③

#### 【土地の所有者（管理者）には責任があります】

土地の所有者（管理者）は、自分の土地に不法投棄されたときは、捨てた人が不明の場合、その廃棄物を自らの責任で処理しなければなりません。

日頃から、こまめに草刈をして清潔を保つようにし、みだりに人が立ちいらぬように囲いや防犯灯を設置するなどして、土地の管理には十分注意してください。

地球温暖化、海洋汚染、森林破壊。いま、世界中ではさまざまな環境問題が起きています。国や自治体の取り組みももちろん大事ですが、一番大事なのはみなさん一人ひとりの行動です。

身近なところから、出来るところから、持続可能な社会に向けて一歩ずつ始めていきましょう。

【問い合わせ先】 環境生活課 ☎0893(57)9966



世界にはばたけ

# 大洲市中学校海外派遣事業 国内 English Camp



大洲市では国際化時代にふさわしい人材育成を目的に(公財)榊山教育振興会の協力を得て、「大洲市中学生海外派遣事業」を実施しています。令和2年度、3年度は新型コロナウイルスの影響により中止となりましたが、今年度は3年振りに実施されました。

今年度は大阪市にある留学体験施設「YOLO BASE」に場所を変え、市内7校の中学生24人が参加し、さまざまなプログラムを通して英語を学びました。

3泊4日の異文化交流を経験し、一回り成長した生徒たちの感想を一部ご紹介します。



## 大洲南中学校 2年 井上 あさひ 朝陽

僕自身あまり英語が得意ではなく、英語で話すことは楽しくないと思っていました。けれど、外国人講師の先生と英語で話したり、グループのみんなと様々な体験をしたりすることで、英語に対する抵抗感がなくなりました。

今回の海外派遣事業でいろいろなことを学ぶことができ、とても貴重な体験になりました。そして英語の大切さに気付くことができました。学んだことを忘れずに自分の進路や将来に生かせるように勉強を頑張っていきたいと思います。海外派遣事業に参加できたことに感謝します。

## 肱東中学校 3年 二宮 なお 菜央

4日間の活動を通してたくさんの貴重な体験をすることができました。最初は不安もありましたが、他校の生徒との仲を深めることができ、また、YOLO BASEでも、様々な国の先生方と出会い、英語で会話することができ、日本にいただけでは分からない外国の文化を肌で感じることもできてとても楽しかったです。

たくさんの経験と自分の可能性を感じることができた、実りある貴重な4日間でした。これからは英語の勉強を頑張って、もっともっと英語が話せるようになりたいです。



## 長浜中学校 3年 大津 豪汰<sup>ごうた</sup>

実際に海外へ行くとありえそうなシチュエーションの中で、必要な英単語や文章などを実際に使ってみました。上手く話せるわけではありませんが、英語キャンプの先生方と英語でコミュニケーションをとることができたことがとても嬉しかったです。

そして、多くの国の文化を学ぶことができました。外国の文化は、イメージでしか知らなかったのでもとても新鮮で楽しかったです。また、日本の文化についても学ぶことができ、異文化を知ることによって改めて自分の国の文化も受け継いでいかなければならないと思いました。



## 大洲北中学校 3年 松下 愛里<sup>あいり</sup>

この事業で私が学んだことは、英語だけではなく、守らなければならない我が国の文化だったり、異国の文化だったり、たくさんありました。自分の視野を広げ、たくさんの物事を色々な角度から見られるようになれば、問題や課題を容易に解決できたり、違いを認め合ったりできるようになると思います。

外国の食事は毎回楽しみで、とても美味しかったです。休憩時には外国人講師の方とビリヤードをしたり、他校の生徒と交流したりして楽しみました。この4日間全部が楽しかったです。受験生の夏休みに貴重な体験をすることができ、いい思い出になりました。

## 新谷中学校 3年 久保 知亜季<sup>ちあき</sup>

今回のイングリッシュキャンプに題名を付けるとするならば「真夏の冒険」です。

この3泊4日で私は大きく変わったと思います。普段受ける英語の授業だけでは感じることもできないことや、もっと英語が話せるようになって、日本だけではなく世界中と繋がってみたいと思いました。私の中学からは1人だけの参加だったが、新しい友達ができ、英語を聞きすぎてホテルのテレビをつけても英語に聞こえた謎の幻聴、テストの点だけではなく相手に伝えようとする力など様々なことを学び、知り、体験することができました。

この経験を通して自分の英語力に前よりも自信が付き、自分の価値観や英語に対しての思いが、ガラリと変わったこの3泊4日はまさに「真夏の冒険」でした。

